

公益社団法人日本臨床細胞学会
2024年度第1回理事会 議事録

日時：2024年4月27日(土) 10:00 ～ 12:30

場所：WEB開催

役員総数： 43名(理事 40名、監事 3名)

出席総数： 理事 37名

(理事)(WEB) 岡本 愛光、阿部 仁、有廣 光司、板持 広明、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、大平 達夫、川名 敬、近内 勝幸、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、下田 将之、進 伸幸、田尻 琢磨、都築 豊徳、豊田 進司、長尾 俊孝、中村 直哉、羽場 礼次、藤井 多久磨、前田一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森定 徹、森谷 卓也、柳田 聡、山上 亘、山口 倫、山下 博、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子

出席総数： 監事 2名

(監事) 長村 義之、佐々木 寛

(細胞診専門医会会長) 青木 大輔

(膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ) 平林 健一

(総務委員会幹事) 片岡 史夫

(総務委員会幹事) 星 利良、和田 直樹

(制度審議委員会幹事) 佐々木 陽介

(陪席) 竹中 将貴

(中田公認会計士事務所) 中田 ちず子

本理事会は、定足数の半数以上(理事40名中37名出席)を満たしたので有効に成立した。テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*岡本 愛光 理事長、*森井 英一 副理事長[総括、事務局運営、編集、認定試験、検査士、国際交流、IAC、渉外]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶(岡本 愛光)

本日は、決算、事業報告、総会案内、最優秀論文賞の選考結果に加え、編集委員会、渉外広報委員会、臨床試験ワーキンググループからも審議事項があり、ご審議をよろしく願いたい。

*副理事長報告(森井 英一)

森井 英一 副理事長： 種々の課題はあるが、粛々と進めている。

前回（2023年度第4回理事会）議事録について
2023年度第4回理事会の議事録確認が行われた。

総務庶務報告（2024年02月20日現在）

全会員数：13,038名

（正会員 5,619名、準会員 7,165名、名誉会員 40名、功労会員 201名、図書会員 13件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,196名（実数）

（認定：細胞診専門医 4,131名、細胞診専門歯科医 123名）

FIAC：71名 MIAC：21名

細胞検査士数：8,111名（実数）（認定 11,426名）

CT(IAC)：3,903名

物故会員（2024年02月21日～2024年04月16日）

功労会員	いけだ ひでお 池田 栄雄 殿	
正会員	たかなぎ のぶたつ 高柳 尹立 殿	（高山市医師会健康管理センター 臨床検査部）
	うえの ひろお 上野 洋男 殿	（NPO法人）札幌診断病理学センター）
	まるやま まきのぶ 丸山 正薫 殿	（丸山記念病院 外科）
準会員	たかく ちゅういち 高久 忠一 殿	（株）PCLセンター 病理・細胞診センター）
	さいとう みき 斉藤 美紀 殿	（海老名総合病院 病理診断技術科）

黙禱

大会準備状況

- 1 第65回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日（金）～9日（日））、第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセ、2024年11月16日（土）～17日（日））、第66回春期大会（田畑 務、京王プラザホテル、2025年6月27日（金）～29日（日））、第64回秋期大会（有廣 光司、広島国際会議場エリア、2024年11月29日（土）～30日（日））、第67回春期大会（宮城 悦子、パシフィコ横浜ノース、2026年6月12日（金）～14日（日））、第65回秋期大会（前田一郎、幕張メッセ、2026年11月22日（日）～23日（月・祝））の準備状況に関する報告が行われた。

【常置・各種委員会から報告】

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるよう対処している。
2. 理事候補者選出に関するオンライン選挙準備状況
 - ① 前回2023年11月の理事会において承認していただいたように、施行細則の本文への追記・附則への追記は簡略化した内容にとどめ（役員等選任に関する施行細則改定案、改定対応表）、詳細は別途、『理事候補選挙に関する申し合わせ』という内規に記載することとし、現在制度審議委員会にて審議いただいた。前回理事会で承認いただいたように、制度審議委員会で

審議された結果をもって、施行細則は 2023 年 11 月 3 日付けの改定となり、申し合わせは 2023 年 11 月 3 日付けの制定となっている。

- ② 2023 年 12 月 27 日に、理事候補者選挙の業務を委託するワオワールド社と直接面談にて諸問題を検討した（森井副理事長、進、事務局、ワオワールド社）。WEBCAS システムは現在マイページとして使用しているシステムで、国内 8000 の大手企業、事業所が採用されており、障害、外部侵入などは常時監視されており、信頼性・安全性に問題はないと考えられる。この WEBCAS システムは高い完成度と多くの利用実績があること、ユーザーの利用条件を反映できるセミオーダー形式であること、から、本学会ではマイページ以外に資格更新申請、セミナー・ワークショップ参加受付、委員会のアンケート調査での使用経験もあり、電子投票の機能設計も行うことができる。ただ一時的に契約外のデータ領域を使用場合は月単位で使用料が必要となる。電子投票は全国区、地方区（仮に全地方区が選挙が必要になると仮定して）で行うため最大 49 万円の使用料金と想定される。事務局でデータ管理できるため、迅速な対応が可能であり、またデータのアクセス権が WOWORLD と事務局に限定されるため、セキュリティの面でも安全である。450 名強の評議員の所属地域は地方区理事選挙の前に個々の有権者に紐づけておき、ログインすると自動的に所属地方区の投票のページに入るように設定することは可能であり、他の地方区選挙に投票することは防止できる。細かい点についてワオワールド社に数点要望を申し入れた。
- ③ 2024 年 3 月 5 日に理事候補者選挙の業務を委託するワオワールド社と直接面談にて上記の打ち合わせ内容を確実に実施できるかどうか、仮作成の電子投票画面にて、すべて確認を行った（森井副理事長、進、事務局、ワオワールド社）。評議員の選出については、評議員選出委員会が担当し、また評議員が選出された後、理事候補者選出は理事候補者選出委員会が担当して行う。地方区選挙は最大 7 地方区（北海道地域、東北地域、関東地域、中部地域、近畿地域、中国、四国地域、九州地域）でおこなわれる可能性があるが、最近では関東地区のみで投票が行われ、他の地域では立候補者数が理事定員数丁度であり、無投票となっている。全国区・各地方区のひとつの選挙で 22 万円の費用がかかるとともに、選挙用のデータサーバーの月単位の使用量が追加が必要となる（2 か月分）見込みである。
- ③ 2024 年 4 月 16 日に総務委員会を web 開催し、主に理事候補者選挙の電子投票の準備について、報告と質疑が行われた。準備状況については特に異議はなかったが、評議員に送付される、投票のための ID とパスワードを紛失した場合、事務局へどう問い合わせするのか、疑義が寄せられ、問い合わせ方法、問い合わせ時期の期限など事務局に確認する必要があることが指摘された。

3. 今後は事務局業務を以下の様に進める。

- ① 一層の電子化を行う。（WEB 利用）
- ② 認定書など、発送が不可避なものは業者への外託とする
- ③ 総会の委任状回収は WEB で行う。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 川名 敬）

[報告事項]

1. 本会ホームページ改訂について検討するための委員会を開いた。具体的には、大きく2点の改定をすることになった。①レスポンシブデザイン(PCやスマートフォン・タブレットなど、閲覧するデバイスにあわせて自動で最適化されるWebデザイン)に切り替える。②HPのコンテンツを維持しながら整理することと見易い建付けに替える。

[審議事項]

1. HP内に教育コンテンツを作成する事が提案された。(これには教育委員会の協力が必要である。)
2. この機会にHPに載せるバナーについての基準が必要ではないかと提案された。

審議結果⇒承認(具体的な内容に関しては、今後検討していただく。)

・横山 良仁 理事：教育委員会としても情報処理委員会からの依頼があれば、協力していきたい。
→子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループでもコンテンツ作成が検討されているようであり、そのようなことにも対応していきたい。(川名 委員長)

・佐藤 之俊 理事：コンテンツを、ガイドラインの様なものと教育的な内容のものとの切り分け・整理が必要になると考える。バナーの問題は、広告のバナーの整理ということか、それとも本学会に関連するバナーの整理ということか？

→広告については厳しいルールがあるため、ほぼ受けていないという現状である。教育的なコンテンツのサイトへアクセスするためのバナーを一か所にまとめることや、掲載の基準についての取り決めが必要だろうという意見が委員会が出た。(川名 委員長)

学術委員会(委員長 前田 一郎) 【資料あり】

[報告事項]

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募結果のイエローページへの掲載。

[審議事項]

1. 最優秀論文賞選考結果について(資料1)

(和文)

豊田 進司 先生(地方独立行政法人 奈良県立病院機構 奈良県総合医療センター)

題：子宮体癌の子宮摘出後継続管理における腔断端細胞診の成績

推薦文：子宮体癌術後の継続管理において腔断端細胞診の意義を提示し、それに加え再発検出における腔断端細胞診と他検査の費用対効果を検証し、腔断端細胞診の有用性を示した論文である。最優秀論文賞(和文)に3論文の申請があり、本論文は評価委員の56%が推薦した論文である。最優秀論文賞(和文)に推薦する。

(英文)

雨宮 健司 先生(山梨県立中央病院ゲノム解析センター ゲノム検査科)

題：Deep targeted sequencing of cytological tumor cells using whole genome amplification

推薦文：細胞診検体においてもFFPEと同様に、薬剤関連遺伝子を検出できるとした今後の発展性、臨床応用が期待される論文である。最優秀論文賞(英文)に4論文の申請があり、本論文は評価委員の55%が推薦した論文である。最優秀論文賞(英文)に推薦する。

審議結果⇒承認

計理委員会（委員長 山下 博）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2023 年度決算案を作成した。
2. 2024 年 4 月 16 日に監査会を実施した。

〔審議事項〕

なし

編集委員会（委員長 都築 豊徳）【資料あり】

〔報告事項〕

1. JST が管轄する J-Stage への日本臨床細胞学会雑誌の参加が編集委員会で承認された。
2. 日本臨床細胞学会雑誌に典型例を掲載した特集を掲載する方向性を日本臨床細胞学会に提案することとした。

〔審議事項〕

1. 報告事項 2 の案件につき、編集委員会で討議を行った。多くの画像系学会ではホームページ上に代表的な症例を掲載し、学会会員の教育のみならず非会員の勧誘手段の一つとなっている。日本臨床細胞学会ではそのようなサイトがない。日本臨床細胞学会雑誌に代表例による症例集を掲載し、広く日本臨床細胞学会の存在を示す機会を作りたいと考えている
WEB よりも雑誌が有利な点として、
 - ① テキストとして印刷可能
 - ② 学習者が PDF として持ち歩き書き込みも容易である（学習に向いている）
 - ③ 学会のサーバー容量を考慮する必要がない（具体的にどの程度の容量が必要かが不明なため、前回の懸案であった川名理事への聞き取りが出来ていない）等が挙げられる。
今後検討すべきかの検討行って頂きたい。

審議結果⇒承認

- ・佐藤 之俊 理事：PDF のみの形態で J-Stage へ公開することになるのか？
→ホームページ上での公開でもよいと考えているが、若い方は勉強の際に PDF に直接書き込みをしたいという要望が多くあり、まずは PDF 版を用いることを考えている。PDF をホームページに使用するかは今後改めて討議していただければと考えている。（都築 委員長）
- ・進 伸幸 理事：転載許可の手続きについてはどうか？
→J-Stage を使用したオープンアクセスにすると、許諾等に係る事務的な手続きも行ってもらえるようである。（都築 委員長）
- ・進 伸幸 理事：画像の使用に関して厳しい考えの著者や施設がある可能性があり、そのあたりの確認も必要になるだろう。
→プラットフォームの立ち上げの段階であり、枠組みや人選も含め逐次そのあたりをつめていきたい。（都築 委員長）
- ・川名 敬 理事：異論はない。PDF をホームページに掲載できるようになれば、ホームページのア

クセス数も増えることで、ホームページのその他の優良なコンテンツへも目が行くことになると思われる。

・岡本 愛光 理事長：会員が幅広くアクセス可能になり、学習にも向いているということであり、是非進めていただきたい。

2. 倫理審査を受けていない新規論文投稿があり、それに対して倫理審査受審を促した。先方より、著者は個人で標本を検鏡していること、倫理審査が可能な施設には属していないこと、それ故に日本臨床細胞学会が提示している倫理申請フローチャートの B2 カテゴリーでの登録を考えていること（添付ファイル参照：当日は参考資料として下さい）、その際の倫理申請先として日本臨床細胞学会の倫理委員会を受け皿として頂きたいとの申し出があった。現在の倫理委員会では倫理審査が想定された体制ではないと考えられる。今回の申し出を含め、今後倫理審査が困難な投稿者に対する対応を協議して頂きたい。（資料2）

参考：

公益社団法人日本医師会倫理審査委員会 JMA Ethics Review Committee | 診療支援 | 診療支援 | 医師のみなさまへ | 日本医師会 (med.or.jp)

https://www.med.or.jp/doctor/sien/s_sien/010842.html

■審査対象

以下の条件を満たす場合に審査依頼を受け付けます。

- ・研究者が所属する医療機関、所属学会あるいは近隣の医師会等のいずれにも倫理審査委員会が設置されておらず、計画している研究の倫理審査を申請することができない状況であること
- ・これから新たに開始する人を対象とする生命科学・医学系研究であること（既に開始または終了している研究や国内未承認あるいは添付文書に記載されていない使用方法による医薬品・医療機器の効果等を調べる研究は対象外です）

審議結果⇒継続審議（まずは医師会の倫理審査委員会へ問い合わせをしていただき、今後学会としては臨床試験審査委員会で対応を検討していただく。）

・伊藤 仁 理事（倫理委員会委員長）：倫理委員会としてはこのような事案は想定外であったため、すぐに対応することはできない。倫理審査委員会が設置されていない機関からの倫理審査の受託を行っている学会は、検索した範囲では日本消化器内視鏡学会と消化器癌検診学会の2学会のみであった。当学会で、新たに倫理審査の受託を行うとなると、手続きや申請書の整備などにかなり時間を要することになるだろう。

・宮城 悦子 理事：現在、費用を負担し委託すれば倫理審査をしてくれる施設は多く存在する。例えば横浜市大では、有料支援を申し込んでいただければプロトコル作成から倫理委員会承認までのサポートが受けられる。医師会としても倫理委員会を設置しているところもある。それらを利用して、審査を受けるのが望ましいと考える。学会が倫理委員会を設置した場合は、変更手続きや年次報告などの管理が大変になることから、最近では学会としては設置しない方向になっている。

・中村 直哉 理事：臨床試験審査委員会に対応していただければよいのではないかと。

→検査技師の方は、医師会の倫理審査委員会へ出すことができないのではないかと？ 詳細は記載されていないが、医師会員でないと出せない可能性があるのではないかと？（都築 委員長）

・森井 英一 副理事長：医師会のホームページを調べてみると、非会員の方でも費用の差はあるが受け付けてくれるようである。学会で倫理審査委員会を設置すると、委員になる方は講習会

の受講単位が必要となるなど手間を要することもあり、医師会の倫理審査などを利用していただくのがよいと考える。

→医師会の倫理審査は医師でなくても審査してもらえるのかが、ホームページ上では不明である。
(都築 委員長)

・森井 英一 副理事長：ヒトを対象とする研究であれば受け付けてもらえると、個人的には考えている。医師でなければいけないとは記載されていないようである。当学会としては臨床試験審査委員会で検討していただく形がよいだろう。

→FAX で問い合わせが来ており、早めの返答が必要である。暫定的に、医師会の倫理審査をおすすめすることを考えている。(都築 委員長)

・岡本 愛光 理事長：現在、当学会誌への投稿数が減少していることもあり、今回のような論文に関しても救済する方向で動いた方がよいと考える。まずは、医師会に問い合わせをいただき、同時に臨床試験審査委員会(渡利 英道 理事)で今後同様の事案を受け入れるかを検討していただければと考える。

・都築 豊徳 理事：後日確認したところ、日本医師会の倫理審査対象は医師のみであるとのことであった。

細胞診専門医委員会 (委員長 近内 勝幸) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 令和5年度細胞診専門医資格更新について

令和5年度の対象者ナンバーは、594-683、1006-1101、1309-1386、1588-1646、1877-2028、2367-2476、2766-2849、3138-3222、3501-3612、8035-8040、8061-8074である。5年毎更新の新単位制度による4回目の資格更新となる。令和6年2月24日(土)に資格更新審査委員会(ハイブリット会議)を開催した。全更新対象者748名中、更新可663名(88.6%)、前回保留更新で今回60単位以上取得で更新可6名(0.8%)、単位充足要審査2名(0.3%)うち1名更新可、単位不足要審査17名(2.3%)うち6名更新可・2名保留更新、未申請38名(5%)、更新辞退11名(1.5%)、退会・退会申請中11名(1.5%)となった。単位不足者にはe-learning等で充足を、未申請者には書類提出を督促中である。

2. 令和5年度教育研修指導医資格更新および新規申請について

資格更新対象者、新規申請者の申請を令和6年3月31日に締め切った。現在事務局で取りまとめ中である。

3. 令和6年度細胞診専門医資格認定試験について

令和6年度の細胞診専門医資格認定試験は令和7年2月1日(土曜日)に行う予定である。会場はAP浜松町を予定している。細胞診専門医試験委員会委員長は、令和5年度と同様、細胞診専門医委員会委員長が兼任する。試験委員の選定が終了し、第一回委員長・副委員長会議を4月14日に実施した。6月に試験公示予定である。

4. サブスペシャルティ領域専門医について

専門医機構のサブスペシャルティ認定について、本学会は学会認定機構承認としてサブスペシャルティ申請を、日本病理学会を通して令和4年9月に行い日本専門医機構が受理した。その後進展がなく経過していたが、令和5年8月29日に第1回機構認定サブスペシャルティ領域懇談

会が開催された。サブスペシャルティ専門研修細則が改定され、機構が指定するカテゴリ1、連絡協議会が指定するカテゴリ2、連絡協議会が認定するカテゴリ3 に分類され、再申請後に審査される見込みとなった。本学会はカテゴリ3 で申請する予定である。令和5年12月に改訂版サブスペシャルティ領域専門研修細則が確定した。機構からの連絡待ちとなっているが、その時期については未定である。連絡後、再申請が必要となる見込みである。

5. e ラーニングについて

e ラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在、共通講習35コンテンツ(含 指導医講習5コンテンツ)、領域講習50コンテンツ、検査士講習35コンテンツが閲覧可能である。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会(委員長 長尾 俊孝)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年度 新規施設認定について

4施設の申請があり、審査の結果、①認定2施設、②条件付認定2施設(その後、認定済み)となった(イエローページに掲載)。

2. 2023年度 新規教育研修施設認定について 2施設の申請があり審査の結果認定された(イエローページに掲載)。

3. 2023年度 認定施設 更新状況

全更新対象施設数:60施設、更新可:57施設(95%)、廃止施設:3施設(5.0%)

4. 2023年度 教育研修施設 更新状況

全更新対象施設数:236施設、更新可:232施設(98.3%)、失効:3施設(2024年3月31日(日)までに申請書未提出+実施年報未提出、2024年4月19日(金)に失効通知発送済)、施設廃止施設:1施設(0.4%)

5. 2022年度 認定施設年報提出状況(2024年4月12日現在)

全850施設中 提出:845施設(99.4%)、未提出:5施設(0.6%)

6. 2022年度 教育研修施設年報提出状況(2024年3月29日現在)

全331施設中 提出:328施設(99.1%)、未提出:3施設(0.9%)

7. 2023年度・内部精度管理(実地調査 2カ所、書類調査 2カ所):

内部精度管理WG(浦野誠WG長)のもとで実施中(3施設済み、1施設書類提出済審査中)

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会(委員長 三上 芳喜)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会HPV上で2024年度(第57回)細胞検査士資格認定試験に関する周知を行った(2024年3月12日付)

- a. 一次試験：2024年10月26日(土)に CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館(大阪府大阪市東淀川区)にて実施予定。
 - b. 二次試験：2024年12月7日(土)・8日(日)に、杏林大学三鷹キャンパス(講義棟)(東京都三鷹市)にて実施予定。
 - c. 試験の公示は7月10日(水)に行う予定。
2. 2024年度(第57回)細胞検査士資格認定試験運営委員会(第1回)を3月10日に開催した。

[審議事項]

なし

細胞検査士資格更新審査委員会(委員長 井上 健)【資料なし】

[報告事項]

1. 2024年度細胞検査士資格更新予定者
1830-2067、2693-2912、3667-3931、4726-4941、5619-5812、6370-6573、
7209-7449、8159-8317、9152-9364、10150-10384
2. 2023年度細胞検査士資格更新対象者更新状況(2024/4/9時点)

全	2096名
更新可	1927名(91.9%)
条件付更新可	10名(0.5%)
保留更新	4名(0.2%)
不備有未完了	6名(0.3%)
更新辞退	27名(1.3%)
退会・退会申請中	101名(4.8%)
逝去	2名(0.1%)
資格失効	19名(0.9%)

更新可には、3月中に結果発送済。

未申請者へレターパックプラスで連絡した結果、3名のみ申請があり、
現在申請書確認中。

未申請でレターパックプラスへの反応が無かった方達は、資格失効通知済

[審議事項]

なし

教育委員会(委員長 横山 良仁)

[報告事項]

1. 2024年度 各種セミナー開催予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第 133 回細胞検査士養成講習会	2024 年 7 月 14 (日) ～26 日 (金)	場所：杏林大学保健学部実習室 (井の頭キャンパス) 実行委員長：阿部 仁 (がん研 有明病院) 現地実習＋現地講義、受講人 数：40 名予定
第 49 回細胞診断学セミナー	2024 年 8 月上旬予定	WEB 開催 教育委員会委員長
第 84 回細胞検査士教育セミナー	WEB 講義視聴期間 2024 年 8 月 23 日 (金) ～9 月 9 日 (月)	WEB 開催 実施委員長：仲村 武 (神奈川 県立がんセンター医療技術 部検査科病理検査室)
第 88 回細胞検査士ワークショップ	鏡検実習日 2024 年 9 月 21 日 (土) WEB 講義視聴期間 2024 年 9 月 24 日 (火) ～10 月 7 日 (月)	場所：札幌医科大学教育研究棟 実行委員長：藤岡 学 (札幌徳洲 会病院) 現地実習＋Web 講義
第 89 回細胞検査士ワークショップ	2025 年 2 月または 3 月予定	ハイブリッド開催 場所・実施委員長 検討中

2. 細胞診断学セミナーでのバーチャルスライド化について会議予定 (4 月 22 日教育委員会)

〔審議事項〕

なし

質疑：

・三上 芳喜 理事：細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループでも、検討事項として試験へのバーチャルスライドの導入がある。横山 良仁 教育委員会委員長にも加わっていた
だき議論していきたいと考えている。

渉外・広報委員会 (委員長 森定 徹) 【資料なし】

〔報告事項〕

- 「日本臨床細胞学会の著作物の転載に関する要領」、「転載許諾申請書」について案を作成し、
制度審議委員会で審議をいただき認可を受けた。(2023 年度第 3 回理事会 (2023/11/3) におい
て承認をいただいた。)
- 外部より転載許諾の申し出があった際には、渉外・広報委員会が窓口として受付けた後に関係
委員会へ振り分けを行う。

〔審議事項〕

1. 本学会ホームページのトップページの「お知らせ」の欄への以下の通知の掲載の可否についてご審議をお願いいたします。
 - ・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」(指針)の一部改訂が公表された。(令和6年2月14日)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000059490.html>
 - ・「対策型検診におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」が公表された。(令和6年2月22日)
<https://www.jagcs.org/pdf/screening/HPVmanual202402.pdf>

審議結果⇒承認

社会保険委員会 (委員長 若狭 朋子) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 令和6年1月10日付、中部審査事務センターからの中部ブロックにおける審査上の取扱い(ブロック取決)について。

「検査または手術で採取された同一検体(同一日採取)における組織診と細胞診の併算定は、原則として認められない。」と発表された。

名古屋市内を中心に2024年2月3月の審査状況を聞き取り調査したが現時点では、呼吸器の細胞診については認められている模様。

2024年6月からセルフブロックとROSEの適応拡大が開始されることから、これらの新技術に対する審査状況を確認して、疑義解釈を提出するかどうかを検討したい。

〔審議事項〕

なし

地域連絡委員会 (委員長 伊藤 潔) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2022年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
 - 1) 2022年度報告書の提出の案内は、メールにて送付済。アンケートフォームを利用して提出をお願いしている。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援(子宮の日)について：
 - 1) 2023年度の活動支援の申請件数 40件(47件中)
(申請なし7件：茨城、栃木、三重、奈良、山口、徳島、鹿児島)
開催後、実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5万円を上限とした助成金の支援を行う。
申請件数 40件(47件中)
調査集計最終 内訳
開催中止：7件

開催実施済：40 件

開催実施予定・実施途中：0 件

- 2) 2024 年度の地域連携組織に対する活動支援は、助成金 5 万円を上限とし、希望する地域学会は 2024 年 3 月末日までに、申請書を提出するように依頼した。

〔審議事項〕

なし

質疑：

- ・進 伸幸 理事：開催中止の 7 件はどのようなものか？
→開催の申請がなかったものが 7 件であった。(伊藤 委員長)

国際交流委員会 (委員長 山口 倫) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024 年度日本臨床細胞学会国際交流委員会議 (第 1 回) が 2024. 4. 15 (月)に行われた。

報告事項として、

① 2023 年度の事業の報告

[春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援、日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス (合同会議) のサポート、カンボジアとの交流サポート、JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course]

② 2024 年度事業計画

③ 予算案

についての報告を行った。

検討事項として、

- ① 第 4 回 JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course について。今後委員からも意見を収集し、検討していく
- ② カンボジアとの交流サポート。本年度は秋期大会で 2 名を招聘する予定であること、今後は自立の方向性であること。
- ③ 秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援。現在会長と連絡し、本委員会委員の片山先生主体に準備中であり、委員会から松山市民病院の飛田陽先生が座長に推薦された。

について議論され、承認された。

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会 (委員長 宮城 悦子) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023 年度第 4 回理事会にて承認された以下の項目の改定を行った。

定款・施行細則 p. 56 細胞検査士資格認定試験施行細則

内規・申合せ集 p. 61 公益法人 日本臨床細胞学会 国際交流寄付金に関する申し合わせ

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー、感染対策セミナー開催

第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会

■医療安全セミナー

演題名：変動し不確実で複雑なシステムにおける安全マネジメント

座長： 神戸大学大学院医学研究科 地域社会医学・健康科学講座地域連携病理学分野
教授 河原邦光先生

演者： 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 部長 中島和江先生

日時： 2024 年 6 月 8 日（土）14 時 40 分-15 時 40 分予定（会期：2024 年 6 月 7 日-9 日）

■感染対策セミナー

演題名：次の新興再興感染症に備える ～COVID-19 から学んだこと～

座長： 近畿大学奈良病院 病理診断科 教授 若狭朋子先生

演者： 大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那賢志先生

日時： 2024 年 6 月 9 日（日）13 時 30 分-14 時 30 分予定（会期：2024 年 6 月 7 日-9 日）

第 63 回日本臨床細胞学会秋期大会

■医療安全セミナー

演題名：病理細胞診検査における医療安全 ―制度の維持と業務管理―

座長：（予定）千葉県がんセンター 婦人科 田中尚武先生

演者： 順天堂大学医学部人体病理病態学 青木裕志先生

日時： 2024 年 11 月 16 日（土） 17 時-18 時 （会期：2024 年 11 月 16 日-17 日）

■感染対策セミナー

演題名：新型コロナウイルス感染症の総括 ―来るべき感染症に備えて―

座長：（予定）神奈川県立がんセンター 婦人科 近内勝幸先生

演者： 国際医療福祉大学医学部感染症学・代表教授 松本哲哉先生

日時： 2024 年 11 月 17 日（日） 11 時-12 時 （会期：2024 年 11 月 16 日-17 日）

2. 2024 年 4 月 11 日開催の委員会において、学会ホームページ「医療安全委員会 HOTLINE の利用について」について改訂することとなった。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 日本臨床細胞学会春期大会と秋期大会医療倫理セミナーについては、前回の理事会で報告したとおりである。

2. 5月7日(火)、日本医師会館大講堂において開催される第8回研究倫理教育研修会に参加予定(代理)である。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会(委員長 大平 達夫)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人のCOI申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 役員および委員会委員で対象となる方々よりCOIの自己申告を申請いただいた。前回より郵送を廃止したが、問題なく完了した。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会(委員長 渡利 英道、代理:進 伸幸)(資料なし)

〔報告事項〕

1. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。
 - (ア)「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUSスタディ)(臨床試験主任研究者、青木 大輔先生)
 - (イ)「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤 匡男先生)の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討(管理責任者、佐藤 之俊先生)

〔審議事項〕

なし

IAC連絡委員会(委員長 佐藤 之俊)【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024年6月のECC2024にてIAC理事会が開催予定。日本からのコンパニオンミーティングの要望があり企画した(資料1)。
2. 現在の施行細則では、JSCCの会員が個人で入会・更新等を行うことができないと記載がされているが、直接IACへ入会や更新手続きを行っている事例がある。これについて今後検討していく。
3. The 22nd International Congress of Cytology 2025は、2025年5月11 - 15日にイタリア フローレンス Fortezza da Bassoにて開催予定(資料2)

〔審議事項〕

なし

質疑：

・進 伸幸 理事：IAC へ直接個人で入会されている方は、学術集会に参加する時点での入会が多いのか？

→そうとは限らない。現時点では IAC 事務局から JSCC へ問い合わせをいただいている状況であるが、JSCC 事務局が関与していないと IAC へどのようなメンバーが日本から登録しているかがわからないということになる。一方で、事務作業も煩雑であるところから、落としどころが今後の検討課題である。(佐藤 委員長)

・岡本 愛光 理事長：IAC から、日本からの入会者のリストを受け取ることは可能なのか？

→可能ではあるが、IAC の管理が杜撰なところがあり、今後すり合わせを行うが必要ある。(佐藤 委員長)

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市) の進行状況：

① 本研究では、2013～2014 年度に研究参加した子宮頸がん検診受診者の初年度以降のデータの収集を研究事務局、データセンター (神戸医療産業都市推進機構 医療イノベーション推進センター)、EDC 管理担当 (メディカルエッジ)、関係医療機関と協力して完了した。2022 年 11 月に統計解析責任者・担当者の同席のもと、症例検討会を開催し、データの固定を完了した。さらに 2023 年 5 月に統計解析計画書 (3.0 版) に則った統計解析報告書 (1.0 版) を受理した。現在はこの統計解析報告書をもとにデータの検討と論文化を進めている。本ワーキンググループに関してはこの検討と論文化が完了した時点での解散を計画している。

② 論文公表時には、研究開始当初よりホロジックジャパン株式会社より研究資金、研究資材の援助を受けたこと、本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。本研究の成果について、第 65 回春期大会 (森井 会長) で最終報告を行う予定である。

③ 2024 年 4 月 3 日に臨床試験ワーキンググループ委員会を web 開催し、本研究の主任研究者である青木 大輔先生と、事務局担当の森定 徹先生より、解析結果について説明がなされた。質疑応答が行われ、第 65 回春期大会での最終報告に備えることとした。

主任研究者 青木 大輔先生より以下の報告があった。HPV 検診が国の指針に入ったこともあり、それを踏まえて一部解析を追加することも考えなければ、論文化が困難な状況になる可能性がある。論文化には少し時間をいただきたい。第 65 回春期大会では、実務を担当された森定 理事より研究計画書に基づく内容を主体として報告をさせていただく。

〔審議事項〕

CITRUS は研究自体が終了しており、あとは論文作成、学会での最終報告だけとなっている。この

CITRUS 研究は COVID19 蔓延前は毎年研究フィールドである山梨県と柏市に、主任研究者の青木 大輔先生と事務局担当の森定 徹先生が現地の会場に訪問して、中間報告会として、研究に貢献して下さった地元の先生方対象に講演会をしていた。COVID19 も下火となり論文化も最終段階となっており、今までの全てのご協力に対するお礼も含めて、山梨県や柏市で、最終報告会を開催したい。R6 年度予算は「0」としていたが、資料のように計 20 万円が必要であり、追加予算を申請する次第である。ご審議よろしくお願いたします。 資料 1

(交通費) 研究最終報告会 (山梨県、柏市) のための交通費

(会議費) 研究最終報告会 (山梨県、柏市) の会場確保のための費用

(通信運搬費) 研究最終報告会 (山梨県、柏市) の参加者への通信費用

審議結果⇒承認

・森定 徹 理事：2013 年に研究を開始して以来、山梨県・柏市の現地に赴き年に一度進捗報告を行ってきた。2020-2023 年はコロナの影響で行われていなかったが、最終報告になるということで実際に関わっていただいた現地の先生方へのご報告の機会を設けたいと考えており、予算の計上をお願いしたい。

・山下 博 理事：少し予算に余裕はあるようであり、進めていただければと考える。

・岡本 愛光 理事長：最終報告会は重要であり、承認の方向でよいと考える。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を進めている。
2. 特に NGS を用いた実証実験、臨床検体を用いた実証実験について中心に進めている。
3. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証している。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針の第 2 版の作成に協力した。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. 日本肺癌学会の肺癌取扱い規約第 9 版作成に協力した。

2. 腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）に関する検討を進めた。
3. Intra-interobserver variability 研究（呼吸器細胞診報告様式に関する検討）と異型細胞に関する研究の論文化を進めた。
4. 上記3の発表をもってワーキンググループ活動を終了とする。
5. 異型細胞というカテゴリーに関しての論文を日本臨床細胞学会雑誌へ投稿中である。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。
2. 研究成果のまとめについて論文化を進めている。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

【資料あり】

〔報告事項〕

1. 現在、全国のLBCとDCIASの導入状況をアンケート調査中である。現時点で460施設にご協力いただいている。第65回春期大会で報告予定である。

〔審議事項〕

1. 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き（第二版）」利用に関する覚書（資料）

審議結果⇒承認

・岡本 愛光 理事長：みなし理事会で、病理学会の意向を確認すべきという意見が出たと思うがどのようになったか？

→4月17日に行われた病理学会の理事会でこの内容が承認されている。当学会主体で行う事業には自由に使用できる枠組みになっている。（前田 委員長）

公益社団法人化10周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

【資料あり】

〔報告事項〕

1. 記念誌の増補版を発行した。（中村 直哉 理事より、4月中に出版会社より発送することになっているとのアナウンスがあった。）
2. 記念講演会・祝賀会：2024年4月28日（日）に東京国際フォーラムにて開催する。
3. 広報活動を進めた。（岡本 愛光 理事長より以下のアナウンスがあった。ホームページに細胞

アートクルーズが掲載された。魅力的な内容となっており、現在 SNS で広めつつある。6 月 9 日には、第 65 回春期大会にてワークショップを予定している。8 月 4 日には、慈恵医大でワークショップを開催予定である。）

〔審議事項〕

なし

膀胱癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ（委員長 平林 健一）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 富山県内の施設を対象に、腹腔細胞診の検体処理方法等についてアンケート調査を行っている。今後、回答を集計し解析する。
2. 腹腔細胞診診断一致率の検討について現在準備を進めている。

〔審議事項〕

なし

子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループ（委員長 田畑 務、代理：阿部 仁）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024 年 4 月 8 日、Zoom にて委員会を行った。
これまで、子宮頸がん検診への HPV 検査単独法の導入が厚生労働省から出されるとの情報を基に、『子宮頸がん検診精度管理アドバイザー・検討 WG』を立ち上げた。HPV 検査単独法が検診の主流となった場合は、細胞診検体数の減少が考えられ、細胞検査士の方々ががん検診事業でも深く活躍できる場を作ることを目的としたものであった。その後、細胞診専門医のみの認定であった「細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定」に細胞検査士の方々も加わることが可能となり、一定の成果が得られたものと考えられた。今後は、『子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関する WG』（旧 ASC-US 検討委員会）において、HPV 単独検診時の HPV 陽性症例における細胞診判定について検討することとなった。

〔審議事項〕

なし

質疑：

・近内 理事：細胞診の精度管理アドバイザー（子宮頸がん）資格認定について、第 65 回春期大会で 5 回の講習会が終了し、資格認定を満たす専門医が出てくるため、認定業務が必要となってくる。書類審査のみとなるが、実務を子宮がん検診精度管理アドバイザー・検討ワーキンググループで行うのか、細胞診専門医委員会で行うのか意見をお伺いしたい。

→詳細は、田畑 委員長と相談の上でご報告させていただく。（阿部 仁 理事）

細胞検査士資格認定試験のあり方に関するワーキンググループ（委員長 三上 芳喜）

〔資料あり〕

〔報告事項〕

1. WGの趣旨および概要について

〔審議事項〕

1. WG 構成（案）

審議結果⇒承認

・三上 芳喜 理事：7～8月に第1回目の会合を予定している。3～4か月ごとに会議を行い、1年半程度でワーキンググループとしての意見をまとめていきたいと考えている。優先して議論すべき課題としては、細胞検査士試験の形式（バーチャルスライド、ホールスライドイメージングの導入を含む）、2次試験における手技試験の実施、合否判定の基準、試験日程の決定、会場選定手続き、試験の開催日がある。喫緊の課題については、適宜細胞検査士委員会内で協議をして今年度・来年度の資格認定試験が円滑に行われるように対応していきたい。

子宮頸がん検診における細胞診判定の在り方に関するワーキンググループ（委員長 田畑 務、代理：森定 徹）【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2024年3月26日にZoomにて委員会を行った。

子宮頸がん検診にHPV検査単独法が導入されてその運用が複雑になり、子宮頸がん検診の精度管理が重要となってきている。その精度管理を行う上で重要なことが二つあり、それは①臨床検査と②検診プログラムとしての精度管理である。臨床検査については、HPV検査単独法で行う場合、LBC検体を用いて行うHPV検査、ならびにHPV陽性者に行われる細胞診が重要である。HPV検査については各企業による精度管理が行われているが、細胞診については、HPV陽性症例ということでASC-US以上とする傾向にある。唯一の細胞診判定機関である日本臨床細胞学会としては、今後、LBCでの細胞診の診断方法の指針となるべきものを示していくこととなった。

〔審議事項〕

なし

質疑：

進 伸幸 理事：今後の具体的な検討内容やスケジュールはどうか？

→LBCのASC-US症例のスライドを持ち込み、セルフチェックできるようなものを作成することなどが検討されている。（森定 徹 理事）

2025年度・2026年度評議員選出委員会（委員長 森井 英一）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2023年12月1日（金）HPに評議員選出に関して開示、メールにて会員に周知。

*申請書受付期間 2024年3月11日（月）～2024年4月8日（月）正午までに必着

4月23日に評議員選出委員会を開催した。申請者481名うち申請資格を満たす審査対象者476名に対し審査を行い、正会員数の8%以内となる451名を評議員候補とした。候補者へは辞退しないかどうかの確認を行っており、最終的に6月7日の理事会で承認予定である。申請書ファイルを、より間違いの起こりにくいシステムにするための改善も今後検討していく。

[審議事項]

なし

その他

[報告事項]

1. 今後のスケジュール (0.06_今後のスケジュール)

審議事項

1. 2023年度決算案について (0.07_2023年度決算案)

審議結果⇒承認 (山下 博 計理委員会委員長より詳細の報告があり、承認された。)

・進 伸幸 理事：黒字になった大きな要因は何か？

→学術集会の戻し金が多かったことが一番の理由と考えている。

2. 2023年度事業報告案について (0.08_2023年度事業報告案)

審議結果⇒承認 (岡本 愛光 理事長より詳細の報告があり、承認された。)

3. 総会案内一式について (0.09_総会案内一式)

審議結果⇒承認(日時を訂正した上で承認とする。)

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本 愛光 理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2024年5月23日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 岡本 愛光



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

